

日本新産植物2種

著者	初島 住彦
著者別表示	Hatsushima Sumihiko
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	39
号	1
ページ	39-40
発行年	1991-06-15
URL	http://doi.org/10.24517/00055915



を行った。取り扱った形質は、花茎当たりの花数、花弁数、花弁の幅、雄ずい数、雄ずい長、雌ずい数、雌ずい長、および集合果当たりの小果実数などである。

その結果、基本的にはやはり *R. satotakashii* の示

す各数値は *R. lineatus* と *R. lowii* の中間またはそれに似た値であった。しかし、頑丈な花序、有きよ歯のがく片、細分した柱頭、および暗赤色の果実は2種にない *R. satotakashii* のみの特徴であった。

(Received February 2, 1991)

○ 初島住彦：日本新産植物2種 Sumihiko HATUSIMA: Two Species Newly Found in Japan.

1. ナガバヒゼンマユミ (新称) (Fig. 1) 本種の日本における発見のきっかけは1922年にさかのぼる。すなわち、「田代善太郎日記」の大正編(1972)299頁によると、田代は1922(大正11)年7月18日の大分県における植物調査で次のように述べている。「東院内の谷を下り、5名の八坂神社境内にヒゼンマユミを見るは珍なり、ヒゼンマユミ5, 中, 実のなりたる2, 境内の森林はアラカシ, ウラジロガシ, イチイガシ, ムクノキ, エノキ, タブノキ, ヤブニッケイ, シロダモ, アオガシ, イスノキ, クスドイゲ, ナナメノキ, クロガネモチ, ヤブツバキ, アオキ, アリドウシなどが生えている」。元来ヒゼンマユミは近海地に生えるもので、大分県では東部の津久見島や沖黒島などに知られている。これが海岸から約20kmも内陸にある院内町の八坂神社に生えているということは、いかにもふしぎに思われた。またヒゼンマユミの果実は2月頃熟するが、上記の田代の記事では7月中旬が果期となっており、大分時期がずれている。以上二つの疑問から別府市の荒金正憲氏に調査方を依頼したが、なかなか見つからず、あきらめかけていたが、1989年11月3日、田代が発見した八坂神社から北方約3kmの所にある高並神社境内で幼木が発見され、同年12月16日八坂神社でも発見、つづいて12月23日、ついに果実の着いた木が高並神社で発見された。この採品を色々調べた結果、中国(雲南, 四川, 湖北, 江西, 安徽, 浙江, 福建, 広西)に広く分布する下記の学名の樹木であることがわかった。本種とヒゼンマユミの区別点をあげると次のようになる。

A. 葉は長楕円形で長さ10~12cm, 鋭尖頭, 側脈は6対位で下面で著しく突出し, 細鋸歯縁, 果序は長さ5cm位で, 総果梗はやや細く, 果実は大きさ裂開前で1cm×1cm位, 7~11月頃成熟, 低木または小高木で高さ4~7m. ……ナガバヒゼンマユミ

A. 葉は楕円形~広楕円形で長さ7cm位, 鈍頭または短鈍尖頭鈍端, 側脈は4~5対で下面ではやや不明, 低い鈍鋸歯縁, 果序は長さ5~7cm, 総花梗はやや太く, 果実は大きさ裂開前で1.5~1.8cm×1.5cm, 幹の直径50~80cmに達する高木. ……ヒゼンマユミ

元来日本の西南部には中国産のナナメノキ, シイモチ, タラヨウ, カナメモチ, タニワタリノキ, クスドイゲなどの, いわゆる日華要素と称する常緑樹が数多く知られているが, 本種もその一例と思われる。

なお問題になるのは上記の津久島産のもので, ここのものは葉の特徴は院内町のものと同じしているが, 生育地が島であり, かつ大木となる由であるから今後の研究にまちたい。

2. マンセンビシ 従来鹿児島県の薩摩湖, 川内市の上池などに果実に4個の角を有するヒメビシが知られていたが, 最近大口市の宮人の池で採集したヒメビシは角が2個しかないので, ふしぎに思い調べたところ朝鮮, 満州, 北支に分布する下記学名の植物であることがわかった。両者は葉だけではほとんど区別できないが, 果実を見ればすぐわかる。九州各県でヒメビシが報告されているが, 上記のマンセンビシも混入されているかも知れないので注意していただきたい。

1. *Euonymus oblongifolius* LOES. et REHD. in SARGENT, Pl. Wils. 1 (1913) 486; Anon., Icon. Corm. Sin. 2 (1972) 673, f. 3075; CHANG, D.Y., Fl. Sichuanica. 4 (1988) 270, pl. 71 9: 4-6.

Hab. Innai-cho, Pref. Oita, Kyusyu: Takanami Shrine, M. ARAKANE 26987 (st.), Nov. 3, 1989, 30119 (fr.), Nov. 23, 1990; Yasaka Shrine, Shimo-gomyo, M. ARAKANE 26989 (st.), Dec. 10, 1989.

Distr. C. and S. China.

2. *Trapa pseudoincisa* NAKAI in Journ. Jap. Bot. 18 (1942) 436, t. 3, f. 9; KITAGAWA, Neo-Lineamenta Fl. Mansh. (1979) 466; 顔素珠, 中国水生高等植物図鑑 (1983) 126, f. 68; 遼寧植物志上巻 (1985) 1233, f. 528, 4-5.

Hab. Miyato, Ohkuchi City, Pref. Kagoshima, Kyusyu.

Distr. Korea, Manchuria and N. China.

(〒892 鹿児島市吉野町 2635-3)

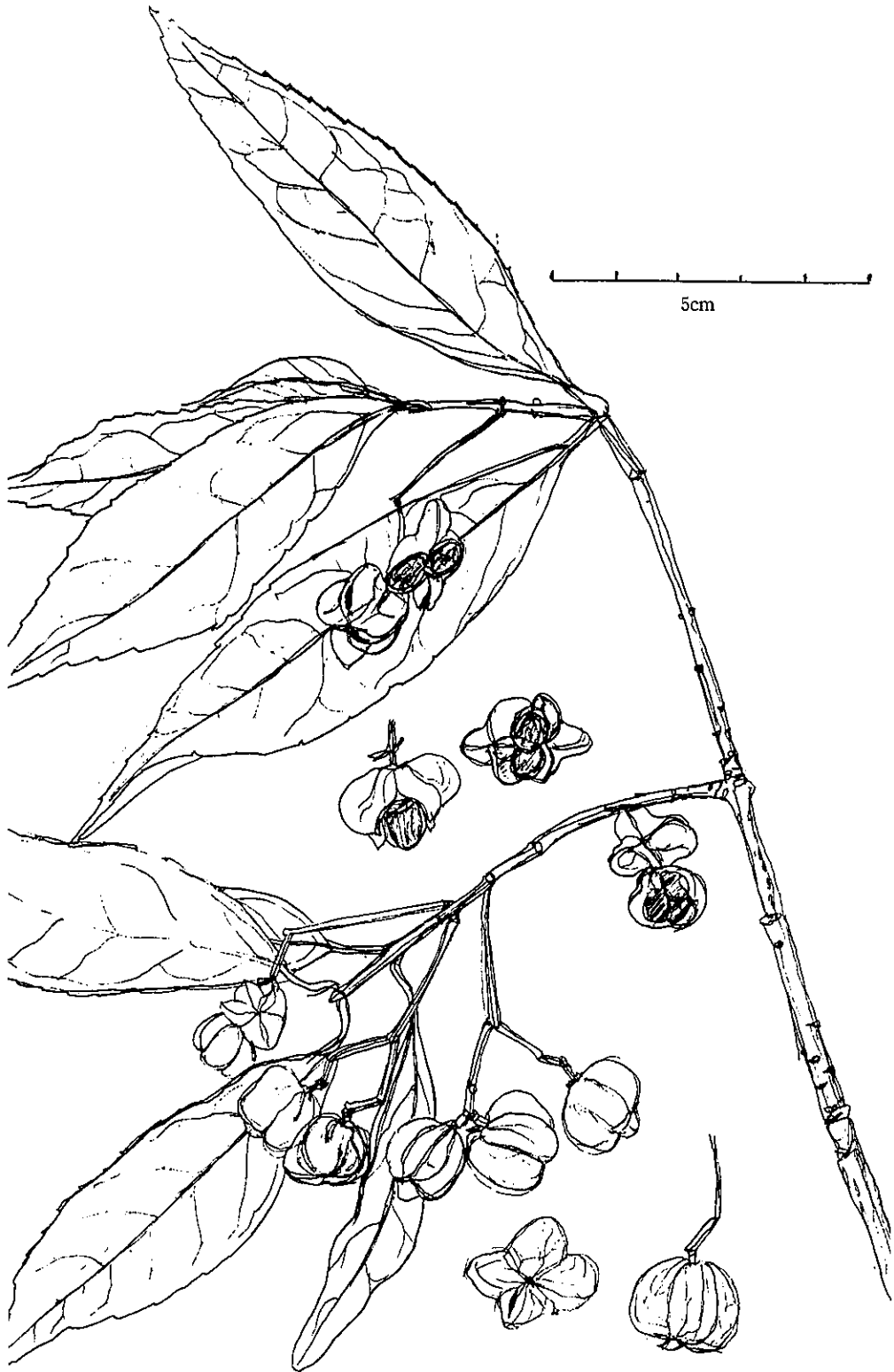


Fig. 1. ナガバヒゼンマユミ *Euonymus oblongifolius*.